

令和7（2025）年度

学習ナビ

（学習の手引き）



丹波篠山市立西紀中学校

授業科目名	国語	対象	1 年生
担当教員	雪岡 照二	受講教室	1 A 教室
週当たり時数	4（年間 140 時間）		
到達目標			
(1) 国語に関心をもち、進んで自己の学びに活かそうとする (2) 言語について正しく理解し、コミュニケーションのための技能を身につけている (3) 課題解決するために、内容を理解し、自分の考えをまとめて話したり、適切に文章に書いたりすることができる			
授業方法	講義、話し合い、表現活動		
○講義：授業者が国語科の見方、考え方について、板書、スライドショー、映像などを用いて説明する ○話し合い、表現活動：自分の考えをまとめたり、話し合い共有したりすることで考えを深める。作文やスピーチ、作品づくりなどの表現活動をおこなう。			
授業計画・内容			
1 学期	2 学期	3 学期	
○風の五線譜 ○朗読の世界 ○詩の心―発見の喜び ○私たちの未来 ○オオカミを見る目 ○文法とは・言葉の単位 ○活字と書き文字・画数・筆順 ○さんちき ○接続する語句・指示する語句 ○文の成分・連文節 ○音読み・訓読み ○平和のバトン ○書写（硬筆の楷書）	○私のタンポポ研究 ○月夜の浜辺 ○移り行く浦島太郎の物語 ○伊曾保物語 ○竹取物語 ○矛盾 ○単語の分類 ○名詞 ○連体詞・副詞・接続詞・感動詞 ○漢字の部首 ○方言と共通語 ○語の意味と文脈・多義語	○書写（毛筆の楷書・行書） ○ニュースの見方を考えよう ○少年の日の思い出 ○トロッコ ○わたしの中にも ○他教科で学ぶ漢字 ○漢字の成り立ち	
休業中	・文法ワーク、国語のワーク ・読書感想文、人権作文		
みなさんへのメッセージ	国語は、すべての学びの基本です。どの教科も日本語（国語）の力が必要です。そして、国語の力＝「読む・話す・聞く・書く・言語の知識」の力です。国語の力がつくと、「学ぶ力が向上した」ことになります。他の教科やこれからの多くの学びに役立つよう、進んで取り組んでいきましょう。		
評価方法			
知識・技能	思考・判断・表現力	主体的に学習に取り組む力	
・定期テスト（5回） ・書写作品 ・小テスト（漢字、文法） ・暗唱テスト	・定期テスト（5回） ・朗読テスト、小作文 ・読書感想文 ・話し合い活動、スピーチ	・授業での意見発表や態度 ・漢字ノート、自主学習ノート ・ふりかえりの内容 ・提出物への取り組み	
授業・評価についての留意事項	国語の力は生活の中で、多くの人と『言葉』でつながっていける力のことを言います。そのために、多くの人に伝わる正しい言葉を習得し、使えることが必要です。積極的に、多くの文章・語句に触れ、自分の考えをもち、その意見や考えを書いたり、話したり、交流できるように学んでいきます。		
使用教材	教科書（東京書籍）、つまづかない文法ワーク、国語の学習（ワーク）、 国語活用資料集、新出漢字の学習、タブレットパソコン		

授業科目名	社会	対象	1 年生
担当教員	森村 圭介	受講教室	1 A 教室
週当たり時数	3（年間 1 0 5 時間）		
到達目標			
（1）我が国の国土と歴史、現代の政治、経済、国際関係等に関して理解するとともに、調査や諸資料から様々な情報を効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。 （2）社会的事象の意味や意義、特色や相互の関連を多面的・多角的に考察したり、社会に見られる課題の解決に向けて選択・判断したりする力、思考・判断したことを説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。 （3）社会的事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される我が国の国土や歴史に対する愛情、国民主権を担う公民として、自国を愛し、その平和と繁栄を図ることや、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。			
授業方法	講義、演習		
○講義：授業者が板書、スライドショー、映像など様々な資料を用いて説明する。 ○演習：地形図や年表、資料やデータをもとに、その現象の意味を考察する。			
授業計画・内容（一部変更はあり）			
1 学期		2 学期	
○地理分野 ・世界の姿 ・日本の姿 ・人々の生活と環境 ・アジア州		○地理分野 ・ヨーロッパ州・アフリカ州 ・北アメリカ州・南アメリカ州 ・オセアニア州 ○歴史分野 ・人類の始まりと文明 ・日本の原始時代 ・日本の古代国家の形成	
3 学期			
○歴史分野 ・古代国家の展開 ・鎌倉幕府の成立 ・室町幕府と下剋上 ・中世の文化			
休業中	・ワーク（基礎基本の定着）		
みなさんへのメッセージ	1 年生では、地理分野・歴史分野を学習します。1 年生の社会科で最も大切なことは、社会科に興味をもつことです。世界の国々や歴史上のできごとに対して、「なぜ？ どうして？」という視点を持ち、授業を受けていきましょう。		
評価方法（それぞれを等価で評価し、最終的な評価を決定する）			
知識、技能		思考・判断・表現力	
主体的に学習に取り組む力			
・定期テスト ・ワークシート（振り返り） ・小テスト		・定期テスト ・ワークシート（振り返り） ・レポート課題	
・定期テスト ・学習に向かう姿勢、提出物等 ・ワークシート（振り返り） ・小テスト			
授業・評価についての留意事項	次の授業に向けて予習に取り組み、目標や課題意識を持って授業に臨みましょう。また、授業中に出された課題などは確実にやり、提出しましょう。最初から答えを見たり、友だちに見せてもらったりするのではなく、自分の力で取り組むことで力が付きます。テストだけでなく、日々の授業プリントにも丁寧に取り組ましましょう。		
使用教材	教科書【地理】（帝国書院）【歴史】（日本文教出版）、地図帳(帝国書院)、Chromebook 地理の学習【地理 1】【歴史 1】（浜島書店）、授業プリント、ファイル		

授業科目名	数学	対象	1 年生
担当教員	木村みどり・西畑魁人	受講教室	1A 教室・学習室 B
週当たり時数	4（年間 140 時間）		
到達目標			
（1）数量や図形などについての基礎的な概念や原理・法則などを理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。 （2）数学を活用して事象を論理的に考察する力、数量や図形などの性質を見だし統合的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を養う。 （3）数学的活動の楽しさや数学のよさを実感して粘り強く考え、数学を生活や学習に生かそうとする態度、問題解決の過程を振り返って評価・改善しようとする態度を養う。			
授業方法	講義、演習		
○講義：授業者が板書、映像など様々な資料を用いて説明する			
○演習：ワークなどを用い、演習問題に取り組む。			
授業計画・内容（一部変更の可能性あり）			
1 学期	2 学期	3 学期	
○正の数・負の数 ・正の数・負の数 ・正負の数の計算 ・素数の積で表すこと ○文字の式 ・文字を使った式 ・文字式の計算	○方程式 ・方程式 ・方程式の利用 ○変化と対応 ・関数 ・比例 ・反比例 ・比例・反比例の利用 ○平面図形 ・直線図形と移動 ・基本の作図 ・円とおうぎ形	○空間図形 ・立体と空間図形 ・立体の表面積と体積 ○資料の活用 ・資料の傾向をとらえ ・説明しよう ・累積度数 ・データにもとづく確率 ○一年間の総復習	
休業中	・ワーク⇒基礎基本の定着		
みなさんへのメッセージ	計算問題は、量をたくさんこなし、自分のつまづきポイントを知り、ケアレスミスをなくしていきましょう。途中式を書くことで、自分がどこで間違えたのか、どこがわかっていないのかということがわかります。図形や関数などの総合問題は、まず問題文の意味を理解し、今まで学んだ事柄をどのように用いるか考え、じっくり粘り強く解答を導いていきましょう。		
評価方法（それぞれを等価で評価し、最終的な評価を決定する）			
知識・技能	思考・判断・表現力	主体的に学習に取り組む力	
・授業中の様子 ・小テスト ・定期テスト ・単元テスト	・授業中の様子 ・小テスト ・定期テスト ・単元テスト	・発表、授業中の様子 ・ノート ・プリント ・課題 ・レポートテスト	
授業・評価についての留意事項	毎回必ず予習をして、目標や課題意識を持って授業に臨みましょう。その日やった問題はその日のうちにマスターしましょう。わからないときは、どこがわからないのかということを考えましょう。出された宿題は必ずしましょう。また、宿題だけではなくワークなども活用し、たくさん問題をときましょう。		
使用教材	未来へ広がる数学（啓林館）、数学の問題ノート 1（新学社）、サマーワーク、ウィンターワークノート（各自で用意）、プリント（授業で配布）		

授業科目名	理科	対象	1 年生
担当教員	岸本 純平	受講教室	理科室
週当たり時数	3（年間 105 時間）		
到達目標			
(1) 自然現象についての理解を深め、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身につける。			
(2) 観察、実験などを行い、科学的に探究する力を身につける。			
(3) 自然現象に進んで関わり、科学的に探究しようとする力を身につける。			
授業方法	講義、演習		
○講義：授業者が板書、スライドショー、映像など様々な資料を用いて説明する			
○演習：自然現象の再現実験及び観察を行う			
授業計画・内容（一部変更はあり）			
1 学期	2 学期	3 学期	
○オリエンテーション ○植物や動物のくらしとなかま ・身近な生物の観察 ・植物の特徴と分類 ・動物の特徴と分類 ○身のまわりの物質 ・いろいろな物質とその性質 ○自由研究について ・テーマの選び方、レポートの作成について	○身の回りの物質 ・様々な実験器具の使い方 ・いろいろな気体とその性質 ・水溶液の性質 ・物質のすがたとその変化 ○光・音・力による現象 ・光による現象 ・音による現象	○光・音・力による現象 ・力による現象 ○活きている地球 ・身近な大地 ・ゆれる大地（地震） ・火をふく大地（火山） ・語る大地（地層） ・自然のめぐみと自然災害	
休業中	・ドリル（夏、冬）→基礎基本の定着 ・自由研究（夏）→科学的思考力の育成		
みなさんへのメッセージ	自然科学とは何か？私たちの身の回りで起きる現象の理由を考えることです。中学校の間には4つの領域を1つの教科として学習します。それぞれの視点で得られた知見をもとに、自然現象について考えていきましょう。		
評価方法（それぞれを等価で評価し、最終的な評価を決定する）			
自然事象への知識、実験技能	科学的思考力、表現力	主体的に学習に取り組む力	
・定期テスト（5回） ・小テスト（不定期） ・実験レポート	・実験レポート ・ディスカッション課題 ・定期テスト（5回）	・授業での意見発表や態度 ・授業の振り返り ・授業のノート記入 ・理科自学の取り組み	
授業・評価についての留意事項	授業では予習課題を設け、予習していることを前提に授業を進める。また、定期的にワーク等の課題を行い、提出を求め、学習内容の定着を確認する。毎時の授業のめあてに対する振り返りを蓄積し、評価に反映する。		
使用教材	未来へ広がるサイエンス1（啓林館）、新理科問題集（あかつき）、毎日の復習（正進社）、理科ノート（新学社）、小テスト（明治図書）他		

授業科目名	音楽	対象	1 年生
担当教員	秋元麻里	受講教室	音楽室
週当たり時数	1. 3（年間 4 5 時間）		
到達目標			
(1) 曲想と音楽の構造などとの関わり及び音楽の多様性について理解するとともに、創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な歌唱、器楽、創作の技能を身につけるようにする。 (2) 音楽表現を創意工夫することや、音楽を自分なりに評価しながらよさや美しさを味わって聞けることができるようにする。 (3) 主体的・協働的に表現及び鑑賞の学習に取り組み、音楽活動の楽しさを体験することを通して、音楽文化に親しむとともに、音楽によって生活を明るく豊かなものにしていける態度を養う。			
授業方法	講義、実技、鑑賞、グループワーク		
○講義：授業者が板書、スライド、映像、音源など様々な資料を用いて説明する ○実技：歌唱、器楽等の練習、演奏を行う。創作活動を行う。音楽を鑑賞し、特徴や曲想を感じ取る。			
授業計画・内容（一部変更はあり）			
1 学期	2 学期	3 学期	
○オリエンテーション ○歌唱 ・主人は冷たい土の中に ・浜辺の歌 ・赤とんぼ ○鑑賞 ・「春」 ○器楽 アルト・リコーダー ○音楽を形作っている要素 ・音楽の形式・音名・記号	○歌唱 ・混声 3 部合唱曲 ○鑑賞 ・「魔王」 ・映画「ジョーズ」から ・雅楽 平調「越天楽」 ○創作 ・音のつながり方	○鑑賞 ・箏曲「六段の調べ」 ・日本の民謡 ・アジア諸民族の音楽 ○器楽 箏 ○歌唱 ・混声 3 部合唱曲 ○創作 ・音素材の特徴と構成	
休業中	音楽をたくさん聴こう 学習課題はなし		
みなさんへのメッセージ	・音楽では読譜や演奏技能など表現するための基礎知識を学びます。曲が生まれた背景や歴史を知り、作曲者の意図に迫り、音楽を鑑賞します。次の授業に向けて予習課題に取り組み、目標を持って授業に臨みましょう。		
評価方法（それぞれを等価で評価し、最終的な評価を決定する）			
知識・技能	思考・判断・表現力	主体的に学習に取り組む態度	
・実技テスト ・ワークシート・創作課題 ・定期テスト（3 回）	・ワークシート・創作課題 ・実技テスト ・定期テスト（3 回）	・授業での意見発表や態度 ・ワークシート・創作課題 ・定期テスト（3 回）	
授業・評価についての留意事項	授業では歌唱や器楽における演奏の基礎と実技、その他鑑賞、創作について学習する。定期テストや実技テスト以外に、授業の中で用いるワークシートを評価（観点別）に加える。また、練習中の姿勢や技能表現等も評価に加える。実技や鑑賞等、その時間のみ実施のものも多いため、欠席者は授業者に必ず授業内容を確認すること。		
使用教材	中学生の音楽 1、中学生の器楽（教育芸術社）ワークシート（授業で配布）		

授業科目名	美術	対象	1 年生
担当教員	村部 京子	受講教室	美術室
週当たり時数	1. 3（年間 4 5 時間）		
到達目標			
（1）対象や事象を捉える造形的な視点について理解するとともに、意図に応じて表現方法を創意工夫して表すことができるようになる。 （2）自然の造形や美術作品などの造形的なよさや美しさ、表現の意図と工夫、機能性と美しさとの調和、美術の働きなどについて考え、主題を生み出し豊かに発想し構想を練ったり、美術や美術文化に対する見方や感じ方を広げたりすることができるようになる。 （3）楽しく美術の活動に取り組み創造活動の喜びを味わい、美術を愛好する心情を培い、心豊かな生活を創造していく態度を養う。			
授業方法	講義、実技、鑑賞、グループワーク		
○講義：授業者が板書、タブレット、映像、実演など様々な資料を用いて説明する ○実技：美術の表現及び鑑賞を行う。			
授業計画・内容（一部変更はあり）			
1 学期	2 学期	3 学期	
○オリエンテーション ・美術とは何か？ ○色について・絵の具の使い方 ○見つめると見えてくるもの ・明暗、光と影 デッサン ○レタリングとは 絵文字制作 ○鑑賞 美術の始まり	○絵の具の混色と重色 ○造形 紙粘土制作 （キャラクター制作） ○鑑賞 ・俵屋宗達と尾形光琳 ・時代を超える琳派の魅力	○広がる模様の世界 ・日本の伝統模様 ・模様づくり ○日常の中の美術 ○鑑賞 目を閉じると広がる世界 ムンクの叫び	
休業中	ポスター課題、美術に親しむ		
みなさんへのメッセージ	美術では、作品を作るための道具の使い方や表現方法について学びます。また、作品を鑑賞して作者の思いや意図を感じ取り、美術の良さや美しさを感じ取る活動を行います。美術に明確な「答え」はないので自由に自分の思いを表現しましょう。		
評価方法（すべて 1/3 ずつ評価し、最終的な評価を決定する）			
表現及び鑑賞の知識、実験技能	美術的思考力、表現力	主体的に学習に取り組む力	
・定期テスト（3 回） ・作品、ワークシート	・定期テスト（3 回） ・作品、ワークシート	・定期テスト（3 回） ・作品、ワークシート ・授業での意見発表や態度	
授業・評価についての留意事項	定期テスト、ワークシート、アイデアスケッチ、完成作品、授業態度（作品の期日を守る、積極的に取り組むなど）から総合的に判断する。		
使用教材	美術 1（日本文教出版） 美術資料・兵庫県の美術（秀学社）、ワークシート（授業で配布）		

授業科目名	保健体育科	対象	1 年生
担当教員	足立 良輔	受講教室	運動場・体育館・プール・教室
週当たり時数	3（年間１０５時間）		
到達目標			
(１) 運動及び健康・安全について、理論的・科学的に理解し、運動の特性に応じた技能を習得する。 (２) 運動及び健康・安全について、自他の課題を発見し、課題解決の方法を考え、実践する。 (３) 運動の楽しさや喜びを味わうことができ、健康・安全についての学習を主体的に取り組んでいる。			
授業方法	実技、講義		
○実技：誰もが安心・安全に取り組める方法で、目標に向けて練習を重ねる。 ○講義：授業者が板書、スライドショー、映像など様々な資料を用いて説明する。			
授業計画・内容（一部変更はあり）			
1 学期		2 学期	3 学期
○オリエンテーション ○新体力テスト ○陸上競技（ハードル走） ○水泳		○球技（バドミントン） ○球技（マット運動） ○球技（ソフトボール・卓球） ○武道（剣道）	○陸上競技（長距離走） ○ダンス (通年) ○保健分野／体育理論
休業中	規則正しく生活する。		
みなさんへのメッセージ	保健体育は、体育実技だけではなく、保健分野も学習し、体のことや環境のこと、感染症のことなどを学習します。生涯にわたって健康な生活ができるように、一緒にがんばりましょう。		
評価方法（それぞれを等価で評価し、最終的な評価を決定する）			
知識・技能		思考・判断・表現力	主体的に学習に取り組む力
・ 定期テスト（３回） ・ 小テスト（単元ごと） ・ 実技レポート		・ 実技レポート ・ 小テスト（単元ごと） ・ 授業での話し合い活動 ・ 定期テスト（３回）	・ 授業での意見発表や様子 ・ 小テスト（単元ごと） ・ 授業のノート記入 ・ 定期テスト（３回）
授業・評価についての留意事項	実技教科のため、授業には積極的に参加しましょう。苦手意識がある人も多いと思いますが、他者と評価するのではなく、自分がどれだけ成長したかを評価します。 また、定期的にワークの提出を求めます。これも評価（主体的に学習に取り組む力）に加えます。欠席者は授業者や友だちに授業の内容を確認するようにしましょう。		
使用教材	新版中学校保健体育（大日本図書） 中学体育実技（学研）、 中学保体資料ノート（正進社）		

授業科目名	技術	対象	1 年生
担当教員	野元将央	受講教室	技術室
週当たり時数	1 時間（年間 3 5 時間）		
到達目標			
（1）生活と技術についての基礎的な理解を図るとともに、それらに関わる技能を身に付ける。 （2）生活や社会の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し表現するなど課題を解決する力を養う。 （3）よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて、生活を工夫し創造しようとする実践的な態度を養う。			
授業方法	講義、演習		
○講義：：授業者が板書、実験、映像資料を用いて説明する			
○演習：材料と加工に関する技術と生物育成について実験と製作を通して、生活に係る基礎的な知識と技能を身に付ける			
授業計画・内容（一部変更はあり）			
1 学期		2 学期	
○オリエンテーション ・技術の見方考え方 ・年間学習計画 ○材料と加工に関する技術 ・ものづくりの視点と進め方 ・材料の特性 ・設計と製図 ・木材による製品の製作		○材料と加工に関する技術 ・金属の特性 ・金属の特性を利用した製品の製作 ○生物育成に関する技術 ・私たちの生活と生物育成 ・生物育成のサイクル ・栽培計画と栽培の実際	
		3 学期	
		○生物育成に関する技術 ・作物栽培の課題解決 ・栽培技術の活かし方 ○1 年間のまとめ	
休業中	・自由研究または製作（夏季・冬季休業）→生活を工夫し創造する資質能力の育成		
みなさんへのメッセージ	自然科学とは何か？私たちの身の回りで起きる現象の理由を考えることです。中学校の間には 4 つの領域を 1 つの教科として学習します。それぞれの視点で得られた知見をもとに、自然現象について考えていきましょう。		
評価方法（それぞれを等価で評価し、最終的な評価を決定する）			
知識、技能		思考・判断・表現力	
・定期テスト ・製作品		・定期テスト ・課題レポート ・栽培学習ワークシート ・製作品	
		主体的に学習に取り組む力	
		・定期テスト ・ポートレート ・レポート ・学習発表	
授業・評価についての留意事項	技術に関する原理・法則、基礎的な技術の仕組みを理解するための課題を設定し、課題解決に向けた製作活動（知識習得、構想、課題解決活動、まとめ）といった学習活動全般を通して評価を行う。		
使用教材	ノート（各自で用意）、ワークシート（授業で配布）		

授業科目名	家庭科B領域衣食住の生活(食生活)	対象	1、2年生(隔年)
担当教員	遠山久美子	受講教室	被服室・調理室・教室
週当たり時数	1時間(年間 35 時間)		
到達目標			
(1)家族・家庭の機能について理解を深め、家族・家庭、衣食住、消費や環境について生活の自立に向けて理解し、技能を身につける。			
(2)生活の中から問題を見だし、これからの生活を展望して課題を解決する能力を養う。			
(3)自分と家族・家庭生活と地域との関わりを考え、家族とともによりよい生活を工夫し創造しようとする実践的な態度を養う。			
授業方法	講義、実習		
○講義:授業者が板書、スライドショー、映像など様々な資料を用いて説明する			
○実習:調理実習・実験(コロナ対応が解除された場合)・生活を豊かにするものの製作			
授業計画・内容(一部変更はあり)			
1学期	2学期	3学期	
1 食事の役割と食習慣 2 中学生に必要な栄養を満たす食事 中学生の発達と必要な栄養 栄養素のはたらきと 6つの基礎食品群 献立ステップ1栄養バランスを目で見て判断 ・生活を豊かにするものの製作	4 日常食の調理 調理の計画 おいしさと調理(実験含む) ①ますます好きになる肉の調理 ・ (②実習) ①こんなにおいしい魚の調理・ (②実習) ①好きになる野菜の調理 ・ (②実習) 5 地域の食文化 6 献立づくり	3 さまざまな食品とその保存 生鮮食品の選択と保存 食品が食卓にのぼるまで 加工食品の選択 食品の安全と情報	
休業中	・家庭生活で仕事を手伝う。		
みなさんへのメッセージ	食べて、着て、寝て、家族と暮らしていること、ふだんは当たり前すぎて、自分の家庭生活をふりかえることはあまりないかもしれません。日常生活でふれているからこそ、食事づくりを手伝ったり、家族のために食事をつくったり、ボタンをつけたり、ほころびをなおしてみることが実践力です。予習や復習は日々の生活であり、授業を通して深めていきましょう。		
評価方法(それぞれを等価で評価し、最終的な評価を決定する)			
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む力	
・定期テスト(3回)	・製作物 ・課題レポート ・定期テスト(3回)	・授業での意見発表や態度 ・授業のノート記入 ・定期テスト(3回)	
授業・評価についての留意事項	ワークを提出する場合もある。これも評価(主体的に学習に取り組む力)に加える。欠席者は授業者に必ず授業の内容を確認すること。		
使用教材	家庭科総合ノート(明治図書) 兵庫県技術・家庭科ハンドブック		

授業科目名	家庭科B領域(衣生活・住生活)	対象	1.2 年生(隔年)
担当教員	遠山久美子	受講教室	被服室・調理室・教室
週当たり時数	1 時間(年間 35 時間)		
到達目標			
(1)家族・家庭の機能について理解を深め、家族・家庭、衣食住、消費や環境について生活の自立に向けて理解し、技能を身につける。			
(2)生活の中から問題を見だし、これからの生活を展望して課題を解決する能力を養う。			
(3)自分と家族・家庭生活と地域との関わりを考え、家族とともによりよい生活を工夫し創造しようとする実践的な態度を養う。			
授業方法	講義、演習		
○講義:授業者が板書、スライドショー、映像など様々な資料を用いて説明する			
○実習:生活を豊かにするものの製作			
授業計画・内容(一部変更はあり)			
1 学期	2 学期	3 学期	
1 目的に応じた衣服の選択 衣服で伝わるメッセージ自分らしくコーディネート つなげよう和服の文化(着つけ) 上手な衣服の選択 2 日常着の手入れと保管 まかせて衣服の手入れ 布の繊維に応じた手入れ	めざそう洗たく名人 補修や収納・保管 3 生活を豊かに 実践するものの製作 布による作品で生活を演出 製作実習 4 持続可能な衣生活	B 衣食住の生活[住生活] 住まいのはたらき 住まいの空間 家庭内事故への備え 災害への備え 3 持続可能な住生活	
休業中	・家庭生活で仕事を手伝う。		
みなさんへのメッセージ	食べて、着て、寝て、家族と暮らしていること、成長している自分など、ふだんは当たり前すぎて、自分の家庭生活をふりかえることはあまりないかもしれません。知識や技能に正解はあっても、それを生活で自分がどう考え、使うのか、正解は自分が興味を向けて見つけていくことです。予習や復習は日々の生活であり、授業を通して深めていきましょう。		
評価方法(それぞれを等価で評価し、最終的な評価を決定する)			
知識・技能	思考・判断・表現力	主体的に学習に取り組む力	
・定期テスト(3 回)	・製作物 ・課題レポート ・定期テスト(3 回)	・授業での意見発表や態度 ・授業のノート記入 ・定期テスト(3 回)	
授業・評価についての留意事項	ワークを提出する場合もある。これも評価(主体的に学習に取り組む力)に加える。欠席者は授業者に必ず授業の内容を確認すること。		
使用教材	家庭科総合ノート(明治図書)		

授業科目名	英語	対象	1 年生
担当教員	木寅文紀	受講教室	1 A 教室・学習室 A
週当たり時数	4（年間 1 4 0 時間）		
到達目標			
（1）外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどを理解するとともに、これらの知識を、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて活用できる技能を身に付けるようにする。 （2）コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、外国語で簡単な情報や考えなどを理解したり、これらを活用して表現したり伝え合ったりすることができる力を養う。 （3）外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。			
授業方法	講義、演習		
○講義：授業者が板書、デジタル教科書、パワーポイント、映像など様々な資料を用いて説明する			
○演習：実際のスピーチを聞いたり、互いに英語で話し合ったりする			
授業計画・内容（一部変更はあり）			
1 学期	2 学期		3 学期
Unit 0 Nice to Meet You アルファベットの名前と音 Unit 1 Hello, Everyone Unit 2 Our New Teacher Grammar for Communication 1 Unit 3 Our School Grammar for Communication 2 Unit 4 Friends in New Zealand	Stage Activity 1 “All about Me” Poster Unit 5 My Brother in Hawaii Real Life English 「コマーシャル」 Unit 6 A Rakugo Performer from the U.K. Real Life English 「友達の家で」 Unit 7 An Online Tour of the U.K. Real Life English 「道案内」 Unit 8A Think Globally, Act Locally Real Life English 「レストラン」 Stage Activity 1 “My Hero”		Unit 9 Winter Vacation Real Life English 「旅先からの便り」 Unit 10 This Year’s Memories Real Life English 「病院にて」 Stage Activity 3 My Favorite Event This Year Let’s Read Gon, the Fox
休業中	・ワーク		
みなさんへのメッセージ	英語は教科である前に「言語」です。自分の思いや考え、事実を伝える手段の 1 つなのです。また、英語のでは、「積み木」のように学習したことを積み重ねていくことが大事です。アルファベットが書けると単語が書ける、単語が書けると文が書けるのです。		
評価方法（それぞれを等価で評価し、最終的な評価を決定する）			
知識、技能	思考・判断・表現力		主体的に学習に取り組む力
・単語テスト ・リスニングテスト ・定期テスト	・授業での音読、発表 ・インタビューテスト ・定期テスト		・発表 ・インタビューテスト ・提出物
授業・評価についての留意事項	授業を一番大事にします。積極的に参加し、理解を深め、表現する力を伸ばそう。ペア練習＆スピーキング練習＆インタビュー活動に積極的に取り組もう。わからないことは、できるだけ早く解決するようにしよう。ALT の先生に積極的に話しかけ、コミュニケーション力を高めよう。		
使用教材	New Horizon 1（東京書籍）、ノート、ファイル、ワーク		